悲しみを構成する特徴とは何か？

○白井真理子¹ 長峯聖人^{2,3}
(同志社大学¹ 筑波大学² 日本学術振興会³)
Key words: sadness, feature, prototype approach

目 的

悲しみは、大切な人を喪ったときなどに生じるネガティブな感情であると同時に、混合感情(e. g., Larsen, 2011)において喜びと混合する感情として挙げられるように、ポジティブ感情とも関わる複雑な感情である。

Shaver et al. (1987)は、アメリカ人を対象に悲しみを含む5つの感情についてプロトタイプアプローチを用い、各感情概念のプロトタイプについて報告をしている。一方東洋人は西洋人とは異なる感情信念を持ち、よりネガティブな感情のポジティブな側面を知覚し、ネガティブ感情を制御しない(Miyamoto et al., 2014)ことから、西洋人とは異なる感情プロトタイプを有する可能性が考えられる。

したがって本研究は、日本人を対象に悲しみがどのような特性から構成されている感情概念なのかを明らかにすることを目的とし、プロトタイプアプローチを用いた2つの調査を行った。

調査 1

目的

悲しみ感情に関連する特性語を収集することを目的とした。

方法

参加者 122名の大学生が調査に参加した。

手続き Fehr & Russell(1984)の教示にならない、「悲しみ」という言葉を考えるときに、どのような特徴や特性を考えるかについて尋ねた。回答時間は5分間で、最大20語をリストアップするように求めた。質問紙への回答は集団法で実施した。

結果及び考察

悲しみの特性語をコーディングするため、実験者2名により回答から個々の特性語を抽出した。回答数は全部で923であった(平均7.57個)。Lambert et al. (2009)の手順を参考に、以下の通り個々の回答をカテゴリーに分類した。a)違う形態だが同じ言葉を表している特徴を同じカテゴリーに分類する。b)形容詞によって修飾されているものも、同一の言葉を表す特徴であれば同じカテゴリーに分類する。c)意味的に類似している特徴を同じカテゴリーに分類する。

コーディングの結果、37の特性語が抽出された(Table1)。各特性語は感情と関連する様々な側面を示しており、主に悲しみを生み出す状況(e. g., 死別、失敗)、主観的感情(e. g., 不安、抑うつ)、動機づけ(e. g., 不活性、対処)、行動(e. g., 泣き、社会的離脱)に関する特性語が認められた。

さらに、回答数は多くなかったものの、「意味づけ・成長」や「ポジティブ感情の同時生起」といったポジティブな特徴についても報告された。悲しみのポジティブな特性語は、Shaver et al. (1987)では報告されていなかったものであり、日本人の持つ悲しみ概念の特徴を示していると考えられる。

調査 2

目的

調査1で同定した悲しみの特性語について、典型性を明らかにすることを目的とした。

参加者 140名(男性58名、女性82名)の大学生が調査に参加した。平均年齢は20.63歳(SD=.98歳)であった。

手続き 調査1で明らかになった37の悲しみの特性語に対し

て、どれほど悲しみと関連があるかを8件法(1:全く関係がない~8:非常に関係がある)で評定を求めた。回答時間に制限はなく、参加者のペースで回答を求めた。質問紙への回答は集団法で実施した。

結果及び考察

欠損により分析対象は135名(男性55名、女性80名)であった。従来のプロトタイプアプローチ研究に従い、各特性語の典型性平均値を高い順に並び替え、上位19項目を悲しみの中心特徴、下位18項目を悲しみの周辺特徴とした(Table1)。

典型性評定に関しては、「死」や「泣き」が高く、これらは回答頻度においても多く報告された特性語であったため、悲しみの中心特徴であることが伺える。一方で、「成長」や「ポジティブ感情の同時生起」といったポジティブな側面に関する特性語に対する典型性は低かった。

今後は、悲しみの中心特徴と周辺特徴に対する自動処理過程について検討し、悲しみを構成する特性語についてより詳細に明らかにする必要がある。

Table 1 悲しみの特性語の回答頻度および典型性評定値

		調査1		調査2	
		N	典型性評定	SD	
中心	1 死	59	7.33	1.57	
	2 泣く・涙を流す	111	7.21	1.39	
	3 別れ	22	7.08	1.37	
	4 つらい・苦しい	30	6.84	1.39	
	5 喪失・喪失感	45	6.80	1.31	
	6 さみしさ	15	6.77	1.34	
	7 ネガティブ	33	6.73	1.55	
	8 気分が落ち込む・憂鬱	63	6.70	1.32	
	9 裏切り(他者への失望)	22	6.70	1.59	
	10 孤独・孤独感	13	6.69	1.34	
	11 切なさ	5	6.42	1.51	
	12 絶望(他者以外への失望)	11	6.40	1.68	
	13 表情	20	6.25	1.46	
	14 失敗・挫折	44	6.23	1.59	
	15 対人葛藤	39	6.14	1.46	
	16 胸の痛み・締め付けられる	31	6.04	1.63	
	17 うつむく	5	5.91	1.65	
	18 青	5	5.90	1.74	
	19 不安	7	5.85	1.70	
周辺	20 活動力の低下	48	5.80	1.74	
	21 親和欲求	25	5.62	1.91	
	22 自閉・引きこもり	39	5.59	1.76	
	23 反芻	22	5.59	1.93	
	24 もやもや	6	5.56	1.65	
	25 自己の過失・欠点	17	5.47	1.70	
	26 無力感	17	5.41	1.86	
	27 食欲の低下	10	5.18	1.84	
	28 対処	9	5.07	1.79	
	29 持続性	17	5.05	1.91	
	30 不健康	10	5.01	1.83	
	31 パニック・混乱	8	4.93	1.96	
	32 共感	14	4.77	1.79	
	33 生理的变化	17	4.59	1.90	
	34 意味づけ・成長	6	4.36	1.92	
	35 興奮・衝動	9	3.96	1.86	
	36 哲学・芸術	6	3.53	1.82	
	37 ポジティブ感情の同時生起	3	2.96	1.61	

(Mariko SHIRAI, Masato NAGAMINE)